

# 株式会社カンセキ 中間決算説明資料

---

2006年11月22日



株式会社カンセキ

## 平成18年8月期の総括

---

当中間期における小売業界は、原油価格の急激な上昇や国内金利の上昇、梅雨明けの遅延、集中豪雨や台風といった天候不順による影響を受け厳しい経営状況が続いております。

このような環境の中、ホームセンター部門では、7月に那珂店の改装を行い、売場レイアウトの大幅な変更を実施いたしました。また、オフハウス部門では、4月に7店舗目のオフハウス黒磯店を出店いたしました。

この結果として、当中間期の売上高は、天候不順による影響や前事業年度末に閉店したホームセンターカンセキ日光店の影響等により、165億28百万円(前年比99.6%)となりました。

一方、利益面におきましては、仕入政策の改善や人件費などの経費削減に努めたことにより、営業利益は5億38百万円(前年比135.7%)、経常利益は2億71百万円(前年比252.0%)と前年を大きく上回りました。しかしながら、減損損失2億91百万円等の影響により、中間純損失は1億7百万円となりました。

# 今期の主要トピックス

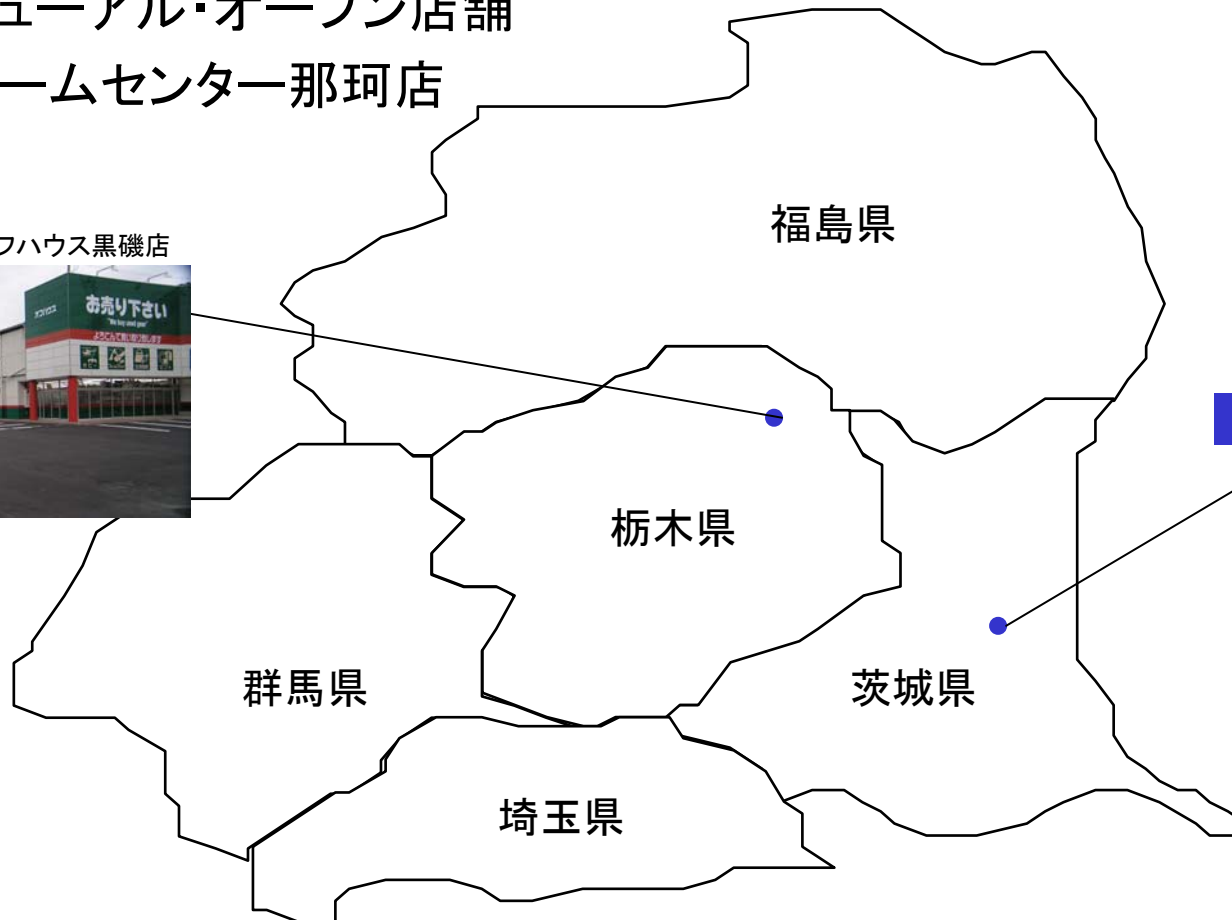
---

## 1. 新規オープン店舗

オフハウス黒磯店(平成18年4月7日オープン)

## 2. リニューアル・オープン店舗

ホームセンター那珂店



## 平成18年8月期貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	当中間期	前中間期	前期比		当中間期	前中間期	前期比
流動資産	7,129	7,537	94.6%	流動負債	11,355	11,883	95.6%
棚卸資産	5,392	5,768	93.5%	短期借入金	6,519	7,115	91.6%
その他の流動資産	1,737	1,768	98.2%	一年以内償還予定の社債	106	81	130.9%
固定資産	22,492	23,395	96.1%	その他の流動負債	4,730	4,686	100.9%
有形固定資産	17,001	17,580	96.7%	固定負債	13,983	14,617	95.7%
無形固定資産	701	723	97.0%	社債	396	502	78.9%
投資その他の資産	4,789	5,092	94.1%	長期借入金	11,729	12,263	95.6%
繰延資産	8	18	49.1%	その他の固定負債	1,857	1,851	100.3%
				負債合計	25,339	26,500	95.6%
				資本合計	—	4,450	—
				負債及び資本合計	—	30,950	—
				株主資本	4,253	—	—
				評価・換算差額等	37	—	—
				純資産合計	4,290	—	—
資産合計	29,630	30,950	95.7%	負債及び純資産合計	29,630	—	—

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 平成18年8月期損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	当中間期	前中間期	前期比	備考
売上高	16,528	16,600	99.6%	ホームセンター1店舗の改装・オフハウス1店舗の出店による増加と、ホームセンター1店舗閉鎖による減少
売上総利益	4,455	4,364	102.1%	仕入政策の改善による売上総利益率の向上
販管費及び一般管理費	4,617	4,669	98.9%	効率的な業務運営による販管費の圧縮
営業利益	538	396	135.7%	
経常利益	271	107	252.0%	長期・短期借入金の減少による支払利息の圧縮
特別利益	—	20	—	
特別損失	300	28	1062.8%	当事業年度より減損会計の適用のため、減損損失の計上による
税引前中間純利益 又は 税引前 中間純損失(△)	△ 29	99	—	
法人税・住民税及び事業税	77	31	245.1%	
中間純利益 又は 中間純損失(△)	△ 107	67	—	

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	当中間期	前中間期	前期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,715	1,179	535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15	△ 222	206
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,874	△ 1,202	△ 672
現金および現金同等物の増減額	△ 175	△ 245	69
現金および現金同等物期首残高	952	1,076	△ 124
現金および現金同等物期末残高	777	831	△ 54

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 営業活動によるキャッシュ・フローの内訳

- ・主に減価償却費2億33百万円、減損損失2億91百万円、新店増加に伴う仕入債務の増加額6億93百万円、たな卸資産の減少額5億7百万円により資金が得られたことによるものです。

## 投資活動によるキャッシュ・フローの内訳

- ・主に新規出店(1店舗)、店舗リニューアル(1店舗)などの有形固定資産取得による支出1億23百万円及び差入保証金・敷金の支出3百万円ではありますが、差入保証金・敷金の回収による収入1億88百万円との相殺後の純支出であります。

## 財務活動によるキャッシュ・フローの内訳

- ・主に借入金の返済によるものです。

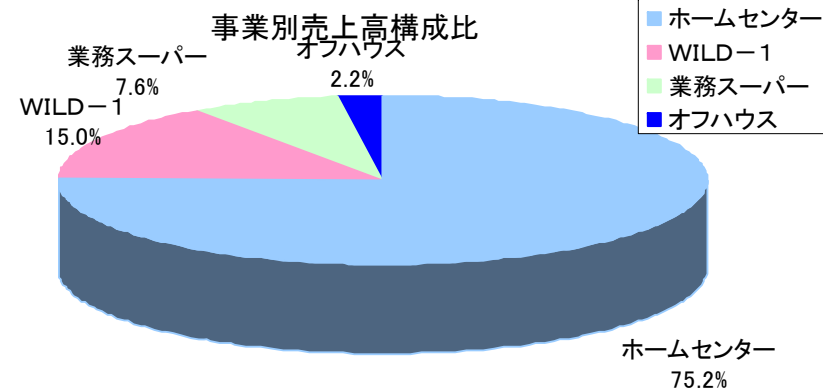
# 事業別売上高

事業	売上高 (百万円)	前期比	構成比	
ホームセンター	DIY用品	5,385	100.0%	32.6%
	家庭用品	3,131	93.2%	18.9%
	カー・レジャー用品	3,911	98.9%	23.7%
	計	12,429	97.9%	75.2%
WILD-1	2,477	97.5%	15.0%	
業務スーパー	1,255	113.1%	7.6%	
オフハウス	367	147.5%	2.2%	
全社計	16,528	99.6%	100.0%	

1. 事業別の主な取扱商品は、次のとおりであります。

- ・DIY用品 素材、金物、エクステリア、植物、園芸用品、住設機器等
- ・家庭用品 日用品、家庭用品、インテリア、菓子食品等
- ・カー・レジャー用品 カー用品、ペット用品、文具、スポーツレジャー用品、アウトドア用品
- ・WILD-1 アウトドア用品
- ・業務スーパー 業務用食材等
- ・オフハウス リサイクル商品

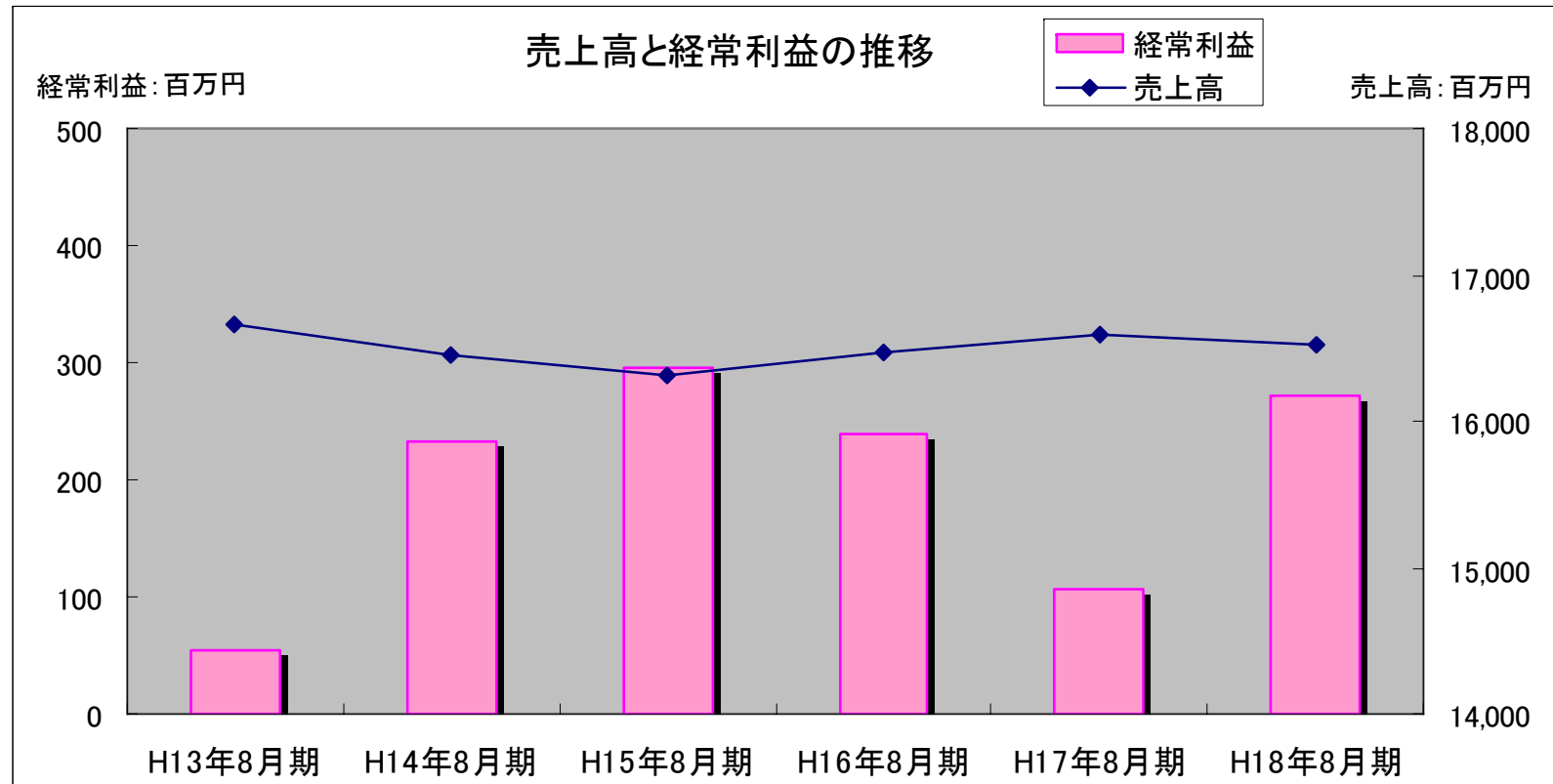
2. オフハウス事業の増加は、店舗増加によるものであります。



# 売上高・経常利益の推移

(単位：百万円)

	H13年8月期	H14年8月期	H15年8月期	H16年8月期	H17年8月期	H18年8月期
経常利益	55	232	296	240	107	271
売上高	16,663	16,458	16,308	16,473	16,600	16,528





## 平成19年2月期の見通し

当社を取り巻く経営環境は、地域的な格差はあるものの徐々に回復基調にあります。一方でデフレ懸念も残り全体として浮揚感のないまま推移しております。原油高による素材価格の高騰を受け、商品価格の下落に歯止めがかかる一方で、同業種・異業種間の競合は一層激化するなど依然として厳しい状況であります。

こうした中、当社といたしましては、主力事業であるホームセンターに注力するとともに、サービス面の充実、既存店の再構築、商品構成の見直しや仕入・値入率の改善を図ります。また、販売システム面では今後の経営環境に迅速に対応すべく再構築を行います。WILD-1・オフハウス・業務スーパー事業は専門店として、日常的(衣食住)な生活から非日常的(アウトドアスポーツ)な生活スタイルを提案し、お客様への更にきめの細かいサービスを展開し業績の向上を目指します。

平成19年2月期の通期見通しといたしましては、売上高324億円、経常利益1億80百万円、当期純損失2億43百万円を見込んでおります。

(単位：百万円)

	平成18年2月期	平成19年2月期予想	前期比
売上高	31,690	32,400	102.2%
経常利益	88	180	203.6%
当期純利益	51	△ 243	—

## ご注意

---

- 本資料は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なっている場合があります。
- また、本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際には、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ  
株式会社カンセキ 総務部  
TEL 028-658-8123  
FAX 028-659-3621